

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あげぼの苑	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県宮崎市田野町あげぼの2丁目31-1		
自己評価作成日	平成23年7月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571500471&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成23年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月1回のドライブにて外に連れ出したり、午前中には体力維持の為に体操や歩行運動、利用者同士のコミュニケーションを図るためのレクリエーションなどに力を入れている。
また、個々の残存能力を生かしてもらえるように、生活リハの充実を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔を絶やすことなく、地域の中で安らぎのある穏やかな毎日が過ごせるようにとの理念を全職員で作成し、実践に取り組んでいる。開設時は、周囲に家のない広い畑作地帯だったが、ホームを囲むような住宅地に変化しているため、地域の住民との関係を築くことができるようになってきている。ホームは職員の異動を極力少なくし、利用者、家族との信頼となじみの関係を築き上げ、安らぎのある毎日が送れるようにと、努力を重ねている。管理者、職員共にコミュニケーションが十分に図られており、生き生きと働いている。また、職員の養成にも力を入れ、介護のスペシャリストを目指すようにと指導を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念ができており、全職員が理念を共有し、充実した支援が出来るように取り組んでいる。		基本的な運営理念を基に、全職員で介護理念を作り上げ、笑顔を絶やさず自然体で接している。折に触れ原点に立ち返り、全職員で理念について話し合う機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・年1回の行事、「夕涼み会」への参加の声かけを行い、利用者の方々と交流して頂くよう努力している。 ・町内文化祭への出展をし、見学も実施している。		地区の文化祭には毎年作品を出品し、会場に向き、地域住民との交流を図っている。また、ホームの夕涼み会には地域の住民に参加を呼びかけ、楽しんでもらっている。ボランティアや見学者の受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・代表者が各地区へ出向き、事業所の内容や、認知症への理解を深めてもらえるよう努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議は2カ月おきに実施 ・内容の記録はしっかり取って月1回の合同カンファレンスで全職員に報告し、意見が反映できるよう努力している。 ・外部評価の結果も発信している。		2か月に1回開かれている。議題はホームの行事計画、空き室の対策、介護の勉強会、職員の移動等、多岐にわたり話し合われ、検討の後、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営者は、常々本庁や総合支所に出向き報告、相談等を行い連携を取っている。 ・管理者は、日常行に就いている事もあり、時間的に難しく出来ていない。		運営者は折に触れ、本庁や総合支所に出向き、ホームの近況、相談事、行事などの報告を行い、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全職員が理解し拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は終日と言うのは難しいが、午前中のレクリエーションの時には開放している。		職員は、身体拘束については理解をしているが、1日のうち、職員の見守りが手薄になる数時間、2ユニットのうちA棟の出入り口の鍵がかけられている。	利用者一人ひとりの外出のくせや帰宅願望の傾向をつかみ、出ていく気配の察知や見守りの連携を図り、鍵をかけなくて済む工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・機会あるごとに話し合いを持ち、苑内にて虐待が見過ごされる事がないよう、職員各々が十分に注意を払い防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居手続きの際に必ずご家族への説明を行い、必要な人には活用できるように支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・理解して頂けるように努めている。その上で不安や疑問に思う事はないかを尋ね、それに対して納得頂けるよう図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・職員が利用者や家族との信頼関係を保ち気軽に意見、要望を言えるような雰囲気作りに努めている。又、それらの意見等が聞かれた時は、速やかに運営者に相談している。		家族からの意見や要望はほとんど上がってこない。家族の来訪時に、職員は積極的に話しかける努力を重ねている。	現状に甘んじることなく、定期的に来訪、行事に来られる複数の家族に、どのようにかかわってもらえるかなども含めて、家族から意見や要望を引き出せるかを検討し、運営に反映することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の合同カンファレンスを含め、機会あるごとに意見や提案を聴くように努め、反映させている。		合同カンファレンスを毎月行い、職員の意見を聴く機会を設けている。管理者は、常に職員に対して傾聴の気持ちを持って接し、出された意見を運営に反映する努力がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の合同カンファレンスに参加し、職員研修発表なども一緒に学んでいる。又、労務士もつけており、職場環境は良いと思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や講習については、時間の許す限り、各人参加していただいている。研修で勉強してきた事はカンファレンスにて発表し、全体で勉強できる環境をつくっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等で、同業者の方との交流はできていると思う。又、田野町のケアマネの勉強会にも参加し、疑問点などを質疑している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	外気浴や食事、入浴の際を利用して、本人が求めている事や不安に思っている事を安心して訴えられるような声かけを行い、同じ言動の繰り返しや精神的な抑揚にも根気よく耳を傾け、否定しない接し方でその方の訴えたい事が何であるかを読み取り、安心して頂けるよう対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前の面談を含め、定期面談やそれ以外に来苑された時には職員の方から声かけを行い、率直な訴えが聞けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ケアマネージャーが窓口となり、良く話を伺った上で、管理者及び他職員と相談し、必要な支援を見極め対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・時には利用者の子供となり、姉妹となり、その時の利用者の方の気持ちを察知し、喜怒哀楽を共にする事で、互いに支え合う関係を築ける努力をしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、その都度本人の状況を細かく伝え、又、常々利用者の方はご家族の事を思っている事も伝えつつ職員と家族が共にその利用者の方にとっての一番を考え支えていけるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会も多く、外出や外泊も進んで取り組んで下さる為、本人と家族との良い関係はできていると思う。		正月には神社にお参りに出かけたり、また、懐かしい学校の周りへドライブに出かける等の支援が行われている。家族も旅行やよく通った温泉に連れていかれる等、なじみの場所との関係を大切にしている方が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自らかかわろうとはしない方もおられるが、時には職員が間に入って声掛けし、一人ひとりの意見を尊重しつつ、他利用者との関わり合いのきっかけを作っていけるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的なかわり方を必要とする方々に対しては、常に連絡を取り合うように努力している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議時に、希望、意向の把握を行っている。困難な場合、本人の残存能力等を勘案し、サービスの提供を行っている。利用者は、新人職員に良く話をされる方が多い。		日々の暮らしの中で、利用者に寄り添い、思いをくみ取り、一部センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用しながら本人の意向が反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に今までの暮らしぶりの把握を行い、なるべく今まで通りの暮らし方をして頂く為に、起床時間、食事、レクリエーション参加の有無、その他、苑に合わせて頂くのではなく本人に職員が合わせて過ごして頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、ケアプランによる一人ひとりの状態を毎日記録し、把握に努めている。状態変化時は看護師と連携をとり、対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に一度、家族、担当者、管理者及び看護師、ケアマネでサービス担当者会議を行い、利用者本位の介護計画を作成している。又、毎月担当者とモニタリングを行い状態把握に努めている。		利用者や家族の意向に沿った介護計画になるよう、担当者、管理者、利用者、家族と検討会議を持ち、作成している。利用者に変化が見られた場合は、そのつど計画を見直し、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた援助記録を行い、体調変化(脚力の低下)等、情報を共有し、頻度の変更やプランの見直しを行っている。ドライブや団子作り等、笑顔が多く見られたら、職員間で話し、コミュニケーションを広げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に大きな問題はない。認知症の方は帰宅願望が強いが、その時その時の対応の方法で落ち着かされている為、今のところは既存のサービスでよい。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・月に一度の紙芝居や敬老会、夕涼み会の時に来てくださるボランティアの方々との交流。 ・ご家族やかかりつけ医関係のボランティアでの慰問や保育園児の慰問。 ・町内文化祭への出品、見学。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を重視し、納得が得られたそれぞれのかかりつけ医での受診ができています。 市立田野病院から月1回訪問診察を受けている。	本人および家族の納得される主治医との関係を築きながら、適切でより良い医療を受けられるように支援している。月に1度、ホームの協力医の訪問診療も行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の関わり方の中で、異常や変化を見逃さないよう注意し、発見した時には速やかに看護職に伝え相談している。 又、看護職同士でも一人で判断せず、相談し、協力を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院後1か月は猶予としている。それ以降はご家族と事業所との相談 ・早期退院に向けて病院関係者との情報交換、相談を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に、急変や終末期については苑の方針を説明、現時点での苑の体制も説明し理解を得ている。	関係者と話し合い、検討し、ホームの方針が決定し、3つの条件を基に看取りを行う体制になりつつある。関係者の協力の下、支援に取り組む姿勢が見えるが、夜間における協力医との話し合いがまだ十分整っていない。	ホームとしての方針は決定しており、職員も終末期の支援に真剣に取り組んでいる。夜間についても協力医との十分な話し合いの下、関係者と共に更なる支援に取り組まれることを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本マニュアルは作成しているが定期的な訓練は実施出来ていない。 研修や勉強会へは、全職員が交互に参加できるように取り組み、必ず内容報告を合同カンファレンスの際に行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域消防団と昼、夜間の火災発生シミュレーションで避難訓練を行っている。 地域との協力体制も築いている。	年に2回、地域消防団の協力を得て、避難訓練が行われている。地域住民の協力体制もできている。消火器や避難経路も常に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合った声かけや対応を行い、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。		利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや対応に細心の配慮をし、日常的に確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を気軽に訴えていただけるよう、出来る限り利用者の方と寄り添う時間を作り、声掛けし、自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に生活を送れるよう支援しているが、午前中は職員や利用者同士の交流を図る為、ホールに集まっていたきバイタルチェックや体操、レクリエーションに参加していただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント参加や病院受診や外出の際には、本人の希望を取り入れつつ日常とは違ったおしゃれができるよう支援し常日頃もその人らしい身だしなみが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力を活かしながら、食材の下ごしらえや、食事後の片づけなどを手伝っていただいている。		職員は利用者の持っている能力を生かしながら、食事の下ごしらえ、配ぜん、盛りつけなどを一緒に行っている。利用者の好みに合わせ、できるだけ旬の野菜を取り入れたメニュー作りがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事の摂取量は毎回記録している。 ・栄養士による献立チェックの結果を参考に、メニューを立てる際には栄養のバランスを考慮している。 ・水分摂取量の記録はしていないが、各々に応じた支援に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、各々の必要に応じて口腔ケアの声掛けや介助を行い、清潔保持に努めている。 ・夜間の義歯消毒も定期的(3/w)に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・各々の排泄パターンを把握し、排泄意識を持つような声掛けを行い、定期的にトイレ誘導することで自立に向けた支援を行っている。 ・夜間に紙オムツを使用されている方も、日中はリハビリパンツ使用とし、トイレでの排泄支援を行っている。	日常の排泄パターンを把握し、トイレで気持ち良く排泄できるように支援し、昼間のおむつ使用をできるだけ少なくし、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の排便チェックを行い、その都度水分補給や適宜な運動への声掛けを行っている。 また、かかりつけ医に相談し、緩下剤の使用の対応も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・各々が、一日おきに一人ずつの入浴で、楽しんで入っていただいているが、業務上希望やタイミングに合わせての入浴は難しい。	隔日交替で、午後の時間帯の入浴になっている。利用者の希望があれば、毎日の入浴も可能な体制にある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のリズムを作る目的で、午前中はリハビリ体操やレクリエーション、行事などに参加していただくよう声掛けし、午後には自室で各々休まれたり、入浴を楽しまれ、夜間は気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々のカルテに閉じてある服薬表に目を通し、処方の変更や中止といった情報も常に職員間で共有し、症状の変化の確認に努めている。 その人に合った服薬支援を行い、確実に飲まれたかの確認を怠らない。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る力に合った役割を考え、そのほうが気持ちよく手伝っていただけるよう支援している。又、各々の楽しみごとを把握し、好みの番組を録画したビデオや雑誌、新聞の提供、書写などの支援も行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はできていないが、ご家族が協力的に外出、外泊をしてくださる方もおられ本人も喜ばれている。 苑の行事として春のお花見、秋の紅葉狩りや文化祭見学を行っている。	天気の良い日には外気浴として、近隣の散歩に出かけている。また、定期的に利用者の希望に沿い、ドライブに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紅葉狩りの際には、各々のお金を用意し、一部の方には直接買物をしていただいているが、日常的に一人ひとりに所持していただくのは難しいと思われる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望される方はおられないが、電話の希望は夜間を除きいつでも対応できている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度にならない飾りつけを工夫し、ソファの設置やその時に合った音楽を流したり、希望に沿ったTVチャンネルに合わせたり、時には畳の間で横になっていただいたり、居心地良く過ごせるような温かい雰囲気づくりに努めている。		過度な飾り物はなく、季節を感じさせる十五夜の供え物をするなど、利用者の五感を呼び起こす工夫がある。リビングの窓からは広い畑が見渡せ、風や光や季節の移り変わる様子が感じてもらえるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の為の自席の他に、一人掛けと二人掛け用のソファを設置し、思い思いに過ごして頂いている。又、気の合う方を隣同士に誘導したり、一人で雑誌を読まれる方は提供したりと工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や人形、生活用品を持ち込まれている。ご家族の写真を飾られており、温かい雰囲気になっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや夜間用のセンサー式照明が設置され、床はバリアフリーとなっている。トイレや各居室には、わかりやすい目印や張り紙を表示している。			